

(3) 環境運命に関する基礎的事項

本物質の分解性及び濃縮性は次のとおりである。

生物分解性

好氣的分解（難分解性と判断される物質）⁵⁾

分解率：BOD 0%、TOC 6%、LC-MS 3%（試験期間：4 週間、被験物質濃度：100 mg/L、活性汚泥濃度：30 mg/L）⁶⁾

嫌氣的分解

下水汚泥を用いた嫌氣的分解試験において、生分解の兆候は見られなかった¹⁾。

化学分解性

加水分解しない¹⁾。

生物濃縮性

生物濃縮係数(BCF)：（高濃縮性ではないと判断される物質）⁵⁾

210～850（試験生物：コイ、試験期間：58 日間、試験濃度：20μg/L）⁶⁾

200～1500（試験生物：コイ、試験期間：58 日間、試験濃度：2μg/L）⁶⁾

（備考：定常状態における BCF:720(試験濃度：20 μg/L)）⁶⁾

1124（可食部、試験生物：ブルーギル、試験期間：62 日間、試験濃度：86 μg/L）²⁾

4013（非可食部、試験生物：ブルーギル、試験期間：62 日間、試験濃度：86μg/L）²⁾

2796（全魚体、試験生物：ブルーギル、試験期間：62 日間、試験濃度：86μg/L）²⁾

土壌吸着性

土壌吸着定数(Kd)：18.3 (粘土)⁷⁾、9.72 (Clay Loam)⁷⁾、35.3 (Sandy Loam)⁷⁾、7.42 (河川底質)⁷⁾

土壌吸着定数(Koc)：704 (粘土)⁷⁾、374 (Clay Loam)⁷⁾、1260(Sandy Loam)⁷⁾、571 (河川底質)⁷⁾

備考 特に断りがない限りカリウム塩としての値

(4) 製造輸入量及び用途

① 生産量・輸入量等

PFOS の平成 17 年における生産量は 1～10t/年であり、1 製造業者で生産されている¹⁾。

PFOS の半導体工業における消費量を表 1.1 に示す⁸⁾。

表 1.1 半導体工業における消費量

平成(年度)	15	16	17
消費量(kg)	3,926	2,762	1,178